NEWS LETTER

が おおれる かなみ総合法律事務所

① はじめに

② 卒業弁護士インタビュー

ニュースレター

目次

③ 新規加入弁護士紹介インタビュー



٦

はじめに~代表よりご挨拶~

代表弁護士の吉谷です。本年もよろしくお願いいたします。

この度、当事務所のニュースレター第3号を発行することになりました。今回のニュースレターの内容は①当事務所に加入した柏田弁護士インタビュー(インタビュー担当 西迫弁護士)②当事務所を退所した池宮弁護士インタビュー(インタビュー担当 濵田弁護士 福ヶ迫弁護士)となっております。この度、当事務所に新しく加入し、既に延岡事務所にて勤務している柏田笙磨(かしわだしょうま)弁護士に今後の抱負等を聞くインタビューが①、当事務所を令和2年 I 月いっぱいで退所して令和2年2月より東京のコンタクトレンズメーカーである株式会社シードの企業内弁護士として稼働している池宮弁護士に当事務所での思い出等を聞くインタビューが②です。

加えて、当事務所では令和2年2月から4月にかけて社労士の先生方向けセミナー(4月28日開催)と宅建業者向けセミナー(2月27日ほか開催)を予定しております。別添のご案内を是非ご覧ください。

これらの記事を当事務所が行っている業務.業務を行っている弁護士,当事務所の個性の3つを 知っていただくための一助として頂けると幸いです。よろしくお願いいたします。

2

卒業弁護士インタビュー

卒業生 池宮秀一(写真中央)× パートナー弁護士 濵田(写真右) & 福ケ迫(写真左)

みなみ総合らしさは「オープン・フラット・近い」

演・事務所に入ったのはいつになりますっけ? 池・2017年1月入所なので、丸三年ですね。沖縄で見てきた法律事務所とはイメージが違い、弁護士の事務員が和気藹々としており、初めて見るスタイルだったので、こういった働き方も良いなと思ったのが入所のきっかけでした。



弁護士は弁護士の個室、事務員は執務室みたいなイメージだったので最初は弁護士と事務員が隣り合っての作業というのが印象的でした。

福・ざっくばらんに、事務所の好きだったところはどんなところですか?

池・事務所内の弁護士が他事務所に比べ、若いということも事案のことを含めフランクに話せたと 言うことで話しやすさもありコミュニケーションも取りやすいということで仕事の効率化にも繋 がって良かったと感じてます。

事件処理は全人的学びを得る場

濵・新人として入所してくれましたが、教育の部分とかはどうでしたか?

池・そうですね。案件を最初から自分で進めて 行って一から覚えて行けると良いかなと思いました。やはり、修習時期に聞いていた実務と、実際 の現場では全然違っているし、依頼者対応という のも実際は生じるので、**町弁事務所において、** 様々な依頼者の事件に最初から最後まで関わることで多くを学んだと感じています。

濵・何か印象に残った案件はありますか?

池・やっぱり各分野で初めに持った案件というのは残ってます。

あと、事件としては典型的なものですが貸金返還 請求で証拠が何もないという事案で裁判して和解 が最後裁判官がこちら側の心証を組んだ和解に なった案件があったのですが、それはやりがいを 感じましたね。

濵・在籍3年間の割には尋問が多かったのではないですか?件数だと2桁くらいいってますよね?

池・そうですね、2桁はいってます。

福・多いですね!3年で2桁は普通ないです。

濵・どうですか尋問は?

池・上手く聞き出す難しさというか、打ち合わせでは出てない答えが本番になると出てきて・・・ 用意が大事だなと思うと同時に、なかなか用意通りにいかなところもあるので凄い神経を使うところでしたね。

濵・反対尋問も難しかったですか?

池・難しいですね。反対尋問だと、どれだけ案件 を把握できてるか、把握できていないとできない んだなと実感しました。

濵・場数を踏むことで自分の緊張感とかは変わってきましたか?

池・最初は文字を追うので精一杯でした、それこそ一字一句間違えられないという感覚でした。それでも2年3年となると書いてないことなんかも、その場で対応したり反対尋問も何とか余裕をもってできたのかなと思います。やりながら覚えていくというのは大きいと感じます。

事件処理以外にも多岐にわたる業務内容

濵・今後は訴訟をやるケースは減っていくんです よね?

池・代理人になることもあるとは聞いてるんです けど、顧問もいるので主になるというのはあまり ないかもしれません。

濵・セミナーで登壇したこともありますけど、 どうでしたか?

池・大勢の前で話すと言うのは自分なりの訓練にはなりましたし、場慣れと言うか、ある種尋問にも繋がっていて、良い経験になったと思います。

濵・今ラジオ出てもらってて一応卒業になるんですけど、4月から12月までで全部で9回出て終活・相続をテーマにお話していただきましたが、どうでしたかメディアに出てみて?

池・なかなか無い経験なのでスタジオに入るということ自体、新鮮でした。あとはリスナーの方がどういう視点で聞いてるのか、どう噛み砕いて話すか、とか。事務所に来て話すのとはまた違う、直接見えない相手に対して話すので色々考えさせられました。それも良い経験になりました。特に話した部分というのは一般論としてどうか、ということなので間違えず伝えるということも必要でした。

池・濵田先生と組むことで多くの顧問先との関わり合いができて、そこについてはみなみ総合だからこそできたことだとは思います。

今のラジオもそうですし、メディア・広告出演も そうだと思います。このあたりもうちの事務所の 規模だからこその経験になったと感じています。

濵・今後は企業内・社内弁護士となるんですが自 分のキャリアを考えてきっかけになったこととか ありますか?

池・どの事件がというのはないのですが、会社の中で事件単位でというのではなく、ずっと会社に対し法的なサポートして、自分がやったことがどういう風に繋がっていくのか、そういったものを先頭してみたかったというのがあった、そう考えると内側に入っていかないと、と考えていました。

町弁から企業内弁護士(インハウス)へ

池・その中でインハウスと言うのを同期から聞いたり、そういった方も増えてる中で自分としてもせっかく取った資格をそういった活かし方もあるんじゃないかなと思ったんです。

濵・実際にどういった業務がメインになるんで しょうか?

池・契約書のチェックだったり、社内からの相談になると思います。あとは知財関係もそうですし、社内規定の整理だったり労使関係の問題、大きなものになるとM&Aなんかもあるようです。

濵・今後当事務所に就職を考えてる方に対して と言うか、被る部分もあるでしょうけど当事務 所のおすすめみたいなものはありますか?

池・修習中や受験生はやはり同じイメージを 持ってると思うんですが、弁護士が個室を持っ ていて、事務員さんとも別々で弁護士は夜遅く まで仕事していて・・・というそういうスタイ ルをイメージするので、いい意味でそれを壊し てくれると思います。

弁護士同士、弁護士と事務員の距離も近いですしコンタクトも取りやすいです。期も他事務所に比べたら若いのでコミュニケーションも取りやすいですし、若手としてはやりやすい。やりたい分野なんかも尊重してくれるので、そこもお勧めだと思います!あとは仕事を遅くまでというのもないのでワークライフバランスを考えてという方には働きやすいと思います!

パートナー二人からのメッセージ

3年間お疲れ様でした。うちの事務所で修習生から弁護士として入社したのは初めてのケースでしたが関わり合いとしては修習生時代から関わって来て、よく頑張っていただけたなと思ってます。

和気あいあいとやらせてもらって事務員さんとも コミュニケーション取ってもらって弄られキャラ だったり、良い存在だったと思います。

キャリアアップのために送り出せるということは 事務所としても前向きに捉えていて良かったと考 えてます。これを機にまた弁護士としても社会人 としても頑張っていただければと思ってます! 西・みなみ総合法律事務所所属の弁護士西迫です。 今日は今年からうちの事務所に加入する柏田笙磨 弁護士に話を聞いてみたいと思います。 柏・はい、よろしくお願いします。

左:西迫弁護士右:柏田弁護士





西・まずは簡単な略歴をどうぞ!

柏・私は**宮崎県日向市出身で中学までは地元の日** 向市で過ごしまして高校は宮崎第一高校の文理科、 そこから熊本大学法学部、熊本大学法科大学院に 進学しまして司法試験に合格して司法修習を経て 今回当事務所に入らせていただきました。

西・法学部に進まれたとのことですが弁護士にな ろうと思ったのはいつごろですか?

柏・私は高校2年生の時に弁護士になろうと志しました。弁護士登録したのは27歳になります。 志し始めてちょうど10年で、ようやく実を結ぶことができました。

西・弁護士業務の中でどういったものに力を入れ たいと思ってますか?

柏・私は弁護士を目指したきっかけが周りの人を助けたい気持ちで志し始めました。なので、身近な人のトラブルと言いますと分野に限らず多様な相談がくると思われます。そのすべてに出来る限り弁護士として依頼者の利益になるよう取組んで行きたいと思っています。

事件の種類はなんでもやりたいとは思っているのですが大学やロースクールでは会社法や民事系の授業を多く選択していたので、会社の方や、一般民事分野でのご支援が必要であればサポートできると考えています。

西・弁護士が取り組みの方向性を決める上で、自 分の性質や強みのこれが活きるんではないか、と いう角度から考える、というのがあります。

新規加入弁護士インタビュー

西・私は、**根本的に人と喋るのが好きなので、割と感情が入る案件でも、お話する中で、依頼書の方に楽になってもらっているようなところがあります**。柏田先生はどうですか?

柏・私は人に対しては誠実に接したいと常日頃から考えているので、対依頼者との関係ですと依頼者の方の希望というのは何が一番問題解決のために求めているのかの聞取りだとか、そういったところのコミュニケーションは積極的に取っていって、ご本人の利益となるように代理人として強く出るべきところは強く出て、叶えていけると思います。

法曹には裁判官、検察官、弁護士という3種類がありますが、私がやりたいのは間違いなく弁護士だと思いました。法理論上なにが正しいかはもちろん重視しつつも**誰かのためになるというのが良いという考え**からです。

西・柏田先生は、以前みなみ総合延岡事務所で事 務員も務めてくれていましたが、当時も含めつつ 当事務所のイメージについて教えてください。

柏・**宮崎県内でも実力を伸ばしている事務所**で県内全域を対応しており相談件数、事件数も周りの事務所に引けを取らない事務所だと思っています。そのことからこの事務所に入れば私自身も多様な経験を積ませていただけるんではないかと入所を希望しました。

一年目と言えども弁護士として依頼者との関係で 言えば、立派なプロであるということは自覚しつ つ、3年を目途にまずは同業者の方とか、そこか ら依頼者の方とか、依頼者以外の周りの方にも信 用や信頼をだんだんと獲得していきたいなとは 思っております。

拠点となる延岡事務所ですが、延岡市は私が生まれ育った日向市に近い県北全般の中心となる土地ですので私が当初理想と言いますか、志としていた生涯で関わる人たちをサポートしたいという考えとも合致した場所だと思います。そうした意味でも弁護士人生をスタートさせるのに最適な場所だと感じています。修習等研修でお世話になった福岡や埼玉で経験したことを地元に還元出来たらと考えています。

柏・ちなみに現在県北を担当している西迫先生からしたら延岡はどういうイメージがありますか?

西・個人の弁護士のスキルが伸びる伸びないと言う観点から行くと、延岡事務所では一人で勤務していたこともあり自分の事務所ではないけれども自分の事務所かのようにやる機会を与えられたと言うのは非常に良いことでありました。

宮崎市内と県北の違いというのは東京と宮崎での違いにもあるように県北で裁判所に係属すると裁判官は簡裁含めても3~4人なんですよね。配点の都合もあって地裁だとほぼこの裁判官と言うように固定されてくるような状況でやっていかないといけない。3年くらいは同じ裁判官と接していくこととなり、人間関係で裁判結果が変わるとは思えないですが礼節を尽くして気持ちよくプロとしてやり合うと言う関係は作らないといけないのかなとは思いますね。

あと**言葉の面でも延岡だと宮崎弁ともは違うので、 そこはリスニング能力が必要だと感じてます**。北浦とか高千穂とか五ヶ瀬とかまで行くとまた違うので大変な部分であり、楽しい部分でもあります。

西・業務の話からは外れるんですが柏田先生って 趣味は何ですか

柏・テニスです。高校から始めたので10年ほどです。現在も社会人サークルに所属しており、週 1,2回のペースで汗を流してます。

西・では弁護士生活のスタートでもありますし、 新年を迎えたと言う事で最後に柏田先生に抱負を お願いします。

柏・当事務所の新人弁護士として一番若手という ことなので積極的に勉強なり事件に誰よりも取り 組んで最終的には依頼者のために全力を尽くせる ようになりたいと思います。よろしくお願い致し ます!

新たなメンバー編成にて更にパワーを増強して 顧問先様・関与先様・地域の皆様のお役に 立てるよう取組んで参ります。2020年も みなみ総合をどうぞ宜しくお願い致します!!